

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第9号 —

平成24年11月20日発行

発行 草加市立病院

編集 経営管理課

〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号

☎ 048 (946) 2200(代)

ホームページ <http://www.soka-city-hospital.jp>

子ども急病夜間クリニック

地域で支える小児夜間救急

平成24年4月に市立病院心臓・脳血管センター1階に「子ども急病夜間クリニック」が開設されました。クリニックでは365日無休で夜間に小児救急診療が行われています。これは、草加八潮医師会の小児科医師などの協力のもと、子育て支援を目的とした草加市独自の取り組みです。スタートして約7か月が経過したクリニックの現状をお伝えします。

医師会の協力による診療体制

子ども、特に乳幼児期は、夜間でも急な症状が出て具合が悪くなることがあります。その際に子どもや家族が抱く不安を少しでも和らげることでできればと願い、草加市では草加八潮医師会の協力のもと、今年の4月から市立病院心臓・脳血管センター1階に「子ども急病夜間クリニック」を開設し、夜間の救急診療を行っています。

クリニックでは、医師会や大学病院の小児科医が毎日交代で診療を行っています。診療時間は午後7時30分から（土・日曜日、祝日、年末年始は午後6時30分から）午後10時30分までで、発熱、おう吐、腹痛など内科系疾患の診療を行っています。

クリニックでの診察（一次医療）の結果、さらに詳しい検査や治療が必要と判断された場合は、市立病院が救急外来での診療や入院の受け入れ（二次医療）を行っています。このように一次医療と二次医療を連続

病状の緊急度に応じた診療を行っています

— トリアージ —

クリニックに来院される子どもの中には、症状が軽く帰宅できる人もいれば、ごく一般的な症状を訴えるものの極めて緊急度の高い病状が隠れていて、すぐに集中的な治療が必要な人もいます。

クリニックでは、診療受付後に看護師が子どもの症状を問診します。そこで子どもの病状の緊急度を判断し、今すぐ医師の診察が必要かどうかを決定します。この過程を「トリアージ」といい、トリアージによって決定された緊急度に従って、診察の順番が決まります。

周りに気付かれにくい隠れた病状を見つけ、重症と判断された子どもの診療を速やかに行うためにも、ご協力をお願いします。



それぞれ役割が果たせる体制に

開院から6か月（平成24年4月～9月）のクリニックの患者数は2540人でした。1日平均では13・9人ですが、1日最多患者数は59人でした。患者さんのほとんどは軽症で診療後にそのまま帰宅しています。が、症状が重く詳しい検査等が必要のため、クリニックを受診後に市立病院で診療を受けた患者さんは6か月で64人いました。

クリニックが開設されるまでは、このように直接病院に来院される患者さんに加え、救急車で搬送される患者さんなどの診療も市立病院の小児科当直医が1人で翌朝まで診療していました。しかし、現在はクリニックが開院している時間は、市立病院の二次医療機関としての本来の役割である重症の救急患者さんや入院患者さんなどの診療に専念できるようになりました。

救急体制の維持のために

この救急医療の体制がこれからも継続的に運営されるには、利用される方々のご協力が欠かせません。救急診療に協力している医師会などの先生方は、自分の診療所や病院の診

療を終えてからクリニックに出向き、時には深夜まで患者さんを診察しています。

「体力的にかなり厳しいですが、子どもたちのためにと思い働いています」と草加八潮医師会副会長の佐藤達也医師は話します。また、市立病院の小児科医も同じ思いで、厳しい状況の中、いつ入院があっても対応できるように毎日当直体制を組んで備えています。

しかし、日々来院される患者さんの中には、昼間から症状が出ていて、医療機関を受診できたにもかかわらず、あえて夜になってから受診されるケースも少なくありません。

佐藤医師は「もちろん急病と考えられるときにはためらわずにクリニックを受診してほしいです。ただ、医療機関が通常の診療を行っている昼間の時間帯であれば、医師や看護師などの医療スタッフが十分に配置されているので、診察や検査をスムーズに受けることができ、子どもや保護者の方にとって安心ですね」と話します。

医療の資源や人材に限りがある中で、救急医療体制を守っていくためには、医療者側だけでなく、受診する患者さんや家族のご協力が必要です。

子どもたちの健康や健やかな成長を支えていくためにも、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

子どもの健やかな成長を願って診療を行う佐藤達也医師

市立病院における 専門医療

市立病院は草加市を中心とする近隣地域の中核病院として、東京医科歯科大学の協力のもと高度専門医療を行っています。近年は患者さんの医療への期待が高度化、多様化する一方で、診断や治療は急速に進歩しています。今回は高度専門医療を推進するうえで最も重要なものの一つである放射線治療、また、早期治療・診断が可能になってきた^{こうげんびょう}膠原病、さらにその中でも代表的な疾患である関節リウマチの治療についてご紹介します。



増える放射線治療

放射線による がん治療

草加市立病院
放射線科非常勤医師 中川 恵子
(東京医科歯科大学医学部放射線科医師)

国民の二人に一人ががんを患い、三人に一人ががんで亡くなるといわれる時代になりました。がん治療の三本の柱は、外科的治療（手術）、抗がん剤による化学療法、そして放射線治療です。患者さんの増加を背景に、がん治療において、放射線治療の担う役割は、年々増大しています。実際、国内でもがん患者さんの四人に一人が放射線治療を受けています。また、国内では手術による治療が行われるようながんに対しても、欧米では放射線治療が第一番目の治療となっている場合があります。国内でのがんの放射線治療は、今後ますます増加していくと予想されます。

放射線治療では、体の外から患部に放射線を照射し、がん細胞を殺す治療を行います。毎日、少しの量の放射線を、一日一回、10回から35回照射することにより行うため、最低でも2週間、多い場合は2か月近くかかる治療なのです。例外はありますが、ほぼ全ての部位のがんに施行される治療法です。また、がん自体を治療するための照射はもちろん、手術の後に再発を予防するための照射や、がんの骨への転移による痛みが強い場合に鎮痛のために行う照射、脳転移による意識障害の軽減のための照射など、その内容も多岐に渡ります。糖尿病や心臓病などの合併症があり、外科手術ができない患者さんでも受けていただける、体に負担の少ない治療です。

新しい治療装置を導入

市立病院でも放射線治療を行っており、平成22年度には、年間約120症例の放射線治療を行いました。内訳は、乳がんの手術のあとの再発予防のための照射が約40例、前立腺がんに対する照射が約20例、様々ながんの骨への転移に対する照射が約30例、その他（大腸がん、食道がん、子宮がん、肺がん、脳転移など）が約30例です。

平成24年4月には、これまで使用してきた治療装置の老朽化のため、新しい放射線治療装置を導入し、5月から本格的に治療を開始しています。新しい治療装置では、かつての治療装置では時間のかかった治療方法の計画や放射線量の計算などが瞬時にできます。また、複雑な形や多方向での照射ができるようになり、効率がよく、副作用の少ない照射が可能となりました。新しい治療装置は、前立腺がんの治療で利用され始めている強度変調放射線治療（放射線の強さをがんの形に合わせて変えながら連続的に照射をする技術）も可能な装置です。5月に稼動してから、4か月ですでに60人を超える患者さんに新しい治療装置での放射線治療を受けていただきました。かつての治療装置稼動時と同様、前立腺がん、乳がんの手術のあとの再発予防のための照射、様々ながんの骨転移に対する照射が主ですが、照射方法の改善により、効率的な治療、副作用の少ない治療が現実のものとなっています。

治療の流れ

市立病院での放射線治療は、まず、現在診察を受けている診療科の先生から、放射線科に紹介していただくことから始まります。放射線治療の診察の予約を取っていただき、放射線科医師の診察を受けていただきます。その時に放射線治療の流れや副作用などについて詳しく説明します。実際に放射線治療を受けることが決まったら、どこに照射するか、どの方向から照射するかを決める作業をします。この作業を治療計画と呼びます。まずCTやレントゲンを撮り、これをもとに、治療計画装置で放射線の方向や量の計算をします。これが終わると、実際の照射開始です。

放射線治療のチームは、医師、放射線技師、看護師で構成されています。患者さんの病気を診断し、どのくらいの放射線量をどのように照射するかを決めるのは医師の仕事です。また、副作用が起こっていないかなど、診察も医師が行います。毎日の照射装置の整備や照射の準備、実際の照射を実施するのは放射線技師です。看護師は日々の照射時に患者さんの手助けをし、また患者さんの状態に気を配ります。

放射線治療を専門にする医師の数はまだまだ不足しており、市立病院には常勤の治療専門医がいません。東京医科歯科大学放射線科から週に1日非常勤医師が派遣され、診療を行っています。そのため、予約がすぐに取れない状況が続いているのが現状です。

有効な治療法として

日本は、広島や長崎での被ばくの経験があり、放射線という怖い、危ないと思う人々が多く、さらには昨年の福島原発の事故により、放射線に対する国民感情は悪くなる一方のように思えてなりません。しかしながら、がん治療における放射線治療は非常に有効な治療法であり、すでに必要不可欠なものとなっています。照射方法の徹底した品質管理により、放射線治療の安全性は年々向上しており、体に負担の少ない、有効な治療法として確立してきているのです。これからも安全、正確、効率的な放射線治療を地域の患者さんに提供していきたいと、放射線治療チーム全員が思っています。





関節リウマチの治療と市立病院の取り組み

草加市立病院
膠原病内科医長 金子佳代子

関節リウマチは難病から治療できる疾患へ

関節リウマチは、全身の関節に炎症による痛みと腫れを来とし、進行すると関節の変形や脱臼などの関節破壊に至る疾患です。日本人における有病率は約0.5%とされ、30～50歳の女性に多いと言

われている病気ですが、60歳を過ぎての発症や、男性患者も珍しくありません。

関節リウマチの治療の歴史はま

だ浅く、これまでは鎮痛薬やステロイド剤を用いた関節の痛みをとる治療しか行われてきませんでした。しかし、最近になってリウマチの炎症の原因物質を押さえ込む生物学的製剤が使用されるようになりまし。これらの薬剤は、関節破壊の抑制に非常に高い有効性を示しています。

関節リウマチは、ここ20年の間に多くの患者さんを苦しめる難病から、治療できる、病気へと変貌を遂げたのです。

専門医による診断と早期からの治療が有効

新しい治療薬の登場にもかかわらず、残念ながら治療前に進行した関節変形を元に戻すことはできません。関節リウマチの関節破壊は、発症2年以内の早期に起こることが知られているため、これを防ぐには早期治療が大切です。

関節リウマチの発症を疑うような兆候（関節の痛みや腫れ、朝の手のこわばり）が見られたら、できるだけ早期に専門の医療機関を受診されるようお勧めします。

埼玉県内では数少ない専門医療機関として

市立病院膠原病内科では、昨年

はじめに

膠原病（こうげんびょう）内科とは、膠原病という原因不明の一連の病気の診療を行うところ。ここでは、膠原病とはどんな病気なのでしょうか。

①膠原病とは？

膠原病とは、ひとこと言えば「体の中の血管と結合組織に炎症が起こる」病気の総称です。膠原病の中でもっとも多いのが関節リウマチです。その他に、全身性エリテマトーデス（SLE）、多発性筋炎／皮膚筋炎、血管炎症候群、強皮症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群など、多くの病気が含まれています。

通常、肺炎や胃潰瘍に代表されるように一つだけの臓器に病

気が起こります。しかし、膠原病ではからだの中のあちこちの臓器に火の手が広がります。しかも、炎症はときには急激に始まりますが、すぐに治まらずにぐずぐずと長引くのが普通です。また、治療をしても、お薬を減らすとまた症状が出現するというように、長い経過を辿ることもしばしばあります。膠原病が難病ともいわれるゆえんです。

膠原病とは体内の代表的な結合組織である膠原線維に由来しています。膠原線維はコラーゲン線維とも呼ばれます。1940年代後半にアメリカの病理学者のクレンペラーは、原因不明の病気で亡くなった患者さんの病理標本を顕微鏡で眺めているうちに奇妙な所見に気付きました。これらの組織では、共通して血管や結合組織にうす赤く染まる物質があることを発見した

4月に常勤医が2人赴任し、外来診療をそれまでの週3日から4日に増設、加えて入院診療を開始しました。昨年度は年間80人程度の関節リウマチや膠原病の入院診療を行いました。

県内では膠原病を専門的に受け入れる施設は極めて少ない状況ですが、市立病院は専門医療機関の1つとして、様々な取り組みを行っています。

まず1つ目は、積極的な新規患者さんの受け入れです。現在は月平均6～7人程度の患者さんが紹介来院されています。

2つ目は、草加八潮医師会との連携です。当院を有効に利用していただくためには、診断が確定し、治療内容が決まって症状が安

のです。そして、このフィブリノイド変性と呼ばれる変化が膠原線維の変性によるものと考え、これらの一連の病気を膠原病と呼ぶことを提唱しました。これが膠原病の誕生です。

②膠原病の原因は？

残念ながら、膠原病の原因は十分にはわかっていません。膠原病の原因に何らかの遺伝的素因と環境要因が関わっていることは確かですが、それ以上詳しいことはわかっていません。女性に多い原因も不明です。したがって、膠原病を予防することはできません。

③膠原病で大切なことは早期発見・早期治療

医学の飛躍的な進歩によって、膠原病の早期診断・早期治療ができるようになってきました。このために、手後れになって治療がうまくいかないということは激減しました。特に関節リウマチでは、早期発見・早期治療によって半数の方が症状のない寛解（かんかい）と呼ばれる状態になります。

④膠原病の治療

膠原病の本体は炎症であり、その原因に免疫異常が関係をしていることから、治療には副腎皮質（ふくじんひしつ）ホルモン（ステロイド）がよく用いられます。ステロイドはよく効く薬ですが、その反面、特有の副作用も持っています。このため、膠原病の診療は専門医が行わなくてはなりません。このほか、免疫抑制薬、生物学的製剤



膠原病をもっと知りたい人は

東京医科歯科大学 膠原病・リウマチ内科

難病情報センター

で

検索

⑤もっと知りたい人は？

膠原病についてもっと知りたい方は、インターネット上で私たちの診療科のホームページ（<http://www.tmd.ac.jp/grad/rheu/rheu-j.htm>）や難病情報センターのホームページ（<http://www.nanbyou.or.jp>）を参照してください。

おわりに

膠原病は慢性に経過する病気です。この病気とけんかをしても病気はよくなりません。むしろ、病気と仲良くしつつ、病気を怒らせないように工夫することも大切です。

専門医と患者さん及びそれを取り巻くご家族や友人とがスクラムを組み、病気と正面から向き合えば、膠原病は難病ではなくなるはず。です。

ボランティア・クローバー

病院を支える大きな柱



ボランティア・クローバーの活動

- ①総合案内で患者さんを笑顔で出迎え
- ②小児科病棟での絵本の読み聞かせ
- ③折り紙作品を制作
- ④メンバーが揃って笑顔の一枚
- ⑤患者さんを癒やす院内コンサート
- ⑥丹精込めて作った壁飾り
- ⑦クリスマスカードを患者さんのもとへ

毎日子どもからお年寄りまで多くの患者さんやご家族が来院する市立病院。1階の総合案内で、訪れた患者さんに優しく声をかけ、丁寧に案内してくれる病院ボランティアを目にしたことはないでしょうか。市立病院の「ボランティア・クローバー」は現在約70名で活動しており、患者さんが安心して受診するためのサポートや入院生活を快適に送っていただくためのお手伝いをしています。今回はその多岐にわたる活動をご紹介します。

総合案内

オレンジ色のエプロンをつけたボランティアが1階エントランスホールで外来患者さんの受付や会計のお手伝い、診療科や検査室へのご案内、車椅子の方の介助などを行っています。月曜日から金曜日の午前8時30分から午後3時30分（土曜日は正午）まで、患者さんが安心して受診できるよう精一杯の気持ちでお手伝いをしています。

絵本の読み聞かせ

小児科病棟で絵本や紙芝居の読み聞かせをしています。子どもたちが入院の合間に楽しいひとときを過ごしています。

おりがみ教室

入院患者さんを対象に月2回おりがみ教室を開いています。10月は金魚やたぬきを折り、喜んでいただきました。

壁飾り

布や和紙、おりがみを用い、季節感のあるものを作品として表現し、院内に飾っています。また、毎年2月に「四季の壁飾り展」と題し、市役所や公民館などで一年分の作品を展示しています。

アフタヌーンコンサート

毎週火曜日の午後にクラシック

クヤポップス、童話、唱歌をピアノ伴奏で歌ったり、フルートやギターなどの演奏をしています。患者さんも一緒に歌い、楽しんでいただいています。

院内コンサート

市内外の音楽団体による一時間のコンサートを定期的に開いています。毎回80～100名の患者さんで広いエントランスホールが一杯になります。クリスマスコンサートではボランティア合唱団が出演し、会場を盛り上げています。

クリスマスカード配り

病院スタッフとボランティアが一緒に行っている年末のイベントとして、クリスマスカードを入院患者さんに配るイベントがあります。3か月近くかけて400枚のカードを作り、院長や看護部長と一緒にクリスマスソングを歌いながら院内を回ります。患者さんはもちろん医師や看護師など病院スタッフも笑顔になる楽しい活動です。

患者さんが「ほっと」できる瞬間を

ボランティア・クローバーでは、「ほっと安心 あなたの笑顔」を今年のスローガンに活動しています。これはボランティアの笑顔で患者さんが病院の中で「ほっと」できる瞬間をつくりたいという全員の思いで決

患者さんの「ありがとう」が活動の励みに

ボランティア・クローバー
片山澄子さん

草加市に引っ越してきて間もなく、「広報そうか」で市立病院のボランティア募集の記事を見つけ、応募しました。入会して約4年が経過しましたが、初めのうちは市内の地名やバスルートなどわからず、患者さんに尋ねられたときに戸惑うこともありましたが、しかし、「患者さんのお役に立ちたい」という思いを胸に、自分なりに病院のことを勉強するとともに、経験豊かなメンバーから多くのこ



とを教わることで、不安が少しずつなくなり、患者さんの対応に自信が持てるようになりました。私は現在総合案内を受け持っています。患者さんから「ありがとう」と感謝の言葉をいただくこともあり、何よりも嬉しく感じます。今年には心臓・血管センターが開院し、市立病院はますます充実してきています。その中で私も心を新たに活動が続けていきたいと思っています。

まったものです。最初は笑顔がぎこちなかった人も、いつの間にか自然な笑顔がこぼれるようになりました。また、この活動がボランティア一人ひとりの元気にもつながっています。

患者さんが病院で快適に過ごしてもらうために

市立病院にはボランティア活動が円滑に進むように調整したり、相談に乗ったりする「ボランティアコーディネーター」がいます。ボランティアコーディネーターは、常に病院全体を見渡し、患者さんが病院で快適に過ごすためにボランティア一人ひとりがどんなお手伝いができるかを考え、新たな活動を企画する役目も担っています。コーディネーターの一人、佐伯ゆかりさんは「自分が本当に

ボランティア募集

温かい心で患者さんをサポートしてみませんか

対象…18歳以上の方
問 市立病院ボランティアルーム
☎946・2200

ボランティアとしてよい仕事をしてきたのか、病院や患者さんが何を望んでいるのか常に考え振り返ることが大切ですね」と話しています。今後もボランティア・クローバーでは、患者さんがより良い環境で安心して受診できるように、ボランティア自身の経験を生かしながら病院スタッフと協力して活動を行っていきます。